科目名	栄養学 A				担当者	梅　津　裕　子						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2 年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。
専門的学習成果 ①	からだの仕組みと食物の取り込みについて理解し、その概要を説明できる。
専門的学習成果 ②	栄養素の種類とその働きについて理解し、その概要を説明できる。
専門的学習成果 ③	からだの働きを支えるエネルギーや栄養摂取の適量について理解し、その概要を説明できる。
専門的学習成果 ④	栄養と健康における課題について理解し、改善点を示すことができる。
汎用的学習成果 (1)	資格取得に向けた栄養学に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用することができる。（専門的学習成果①②③に関連）
汎用的学習成果 (2)	栄養と健康における課題や改善点の把握を通して、社会人として必要な論理的思考を高め課題解決に向けて行動できる。（専門的学習成果④に関連）
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な栄養学に関する知識の習得を目的とする。近年のように複雑多様化した社会に生きるためには、食物の摂取から生命、健康の維持増進、疾病の予防、治療といった広範囲にわたる栄養学的知識が必要となっている。本授業では栄養学の成り立ち、からだの仕組みと食物の取り込み、栄養素の種類とその働き、非栄養素の栄養効果、からだの働きを支えるエネルギー、栄養摂取の適量等について学び、理解を深める。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	全講義内容の理解について定期試験期間に筆記試験を行い評価する。
		レポート		
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。
		平常点	30	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果④により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2022』	柴田書店

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター３級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に４時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、栄養学とフードコーディネーター	ワークシートへの取り組み
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	栄養学の成り立ち	小テスト ７回目授業の後半に2-6回目までの講義内容の理解について小テストを実施する。
	学習成果	栄養学の成り立ちについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養学の成り立ちについて理解を深める。	
3回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み（1）からだの構成単位、からだの働き	
	学習成果	からだの構成単位、からだの働きについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、からだの構成単位、からだの働きについて理解を深める。	
4回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み（2）消化と吸収	
	学習成果	消化と吸収について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消化と吸収について理解を深める。	
5回	授業内容	栄養素の種類とその働き（1）熱量素 糖質	
	学習成果	熱量素 糖質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 糖質について理解を深める。	
6回	授業内容	栄養素の種類とその働き（2）熱量素 脂質	
	学習成果	熱量素 脂質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 脂質について理解を深める。	
7回	授業内容	栄養素の種類とその働き（3）熱量素 タンパク質	小テスト 12回目授業の後半に7-11回目までの講義内容の理解について小テストを実施する。
	学習成果	熱量素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 タンパク質について理解を深める。	
8回	授業内容	栄養素の種類とその働き（4）構成素 タンパク質	
	学習成果	構成素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 タンパク質について理解を深める。	
9回	授業内容	栄養素の種類とその働き（5）構成素 無機質	
	学習成果	構成素 無機質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 無機質について理解を深める。	
10回	授業内容	栄養素の種類とその働き（6）調節素 ビタミン	
	学習成果	調節素 ビタミンについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 ビタミンについて理解を深める。	
11回	授業内容	栄養素の種類とその働き（7）調節素 無機質	
	学習成果	調節素 無機質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 無機質について理解を深める。	
12回	授業内容	非栄養素の栄養効果　食物繊維	定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解について筆記試験を実施する。
	学習成果	非栄養素の栄養効果　食物繊維について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、非栄養素の栄養効果　食物繊維について理解を深める。	
13回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(1) エネルギー生成とその消費	
	学習成果	エネルギー生成とその消費について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エネルギー生成とその消費について理解を深める。	
14回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(2) 消費エネルギーの求め方	
	学習成果	消費エネルギーの求め方について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消費エネルギーの求め方について理解を深める。	
15回	授業内容	栄養摂取の適量	
	学習成果	栄養摂取の適量について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養摂取の適量について理解を深める。	

科目名	新聞を読む				担当者	川辺　博（カワベ　ヒロシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。

専門的学習成果	①	新聞を読んで活用するための技術を身につける。
	②	時事問題に関心をもち、自分自身に関連づけてとらえ、自分なりの考えが発表できる。
	③	「ニュース時事能力検定」受検を目指した取り組みができる。
汎用的学習成果	(1)	現代社会の課題を認識することで、業務においても私生活においても自立した社会人としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果の①②③に関連)
	(2)	現代社会の課題について深く考察し、立場の異なる相手とも議論できる。(専門的学習成果の②に関連)
	(3)	現代社会の課題に取り組んで地域社会の活動に貢献できる。(専門的学習成果の②に関連)
授業概要	新聞は世界を知るための良質のメディアだが、読むには慣れとコツが必要である。この授業では各自が毎週スクラップ・ブックを作り、記事で取り上げられているできごとについて全体で討議することを通して、社会のしくみと現状、問題点についての理解を深める。また新聞記事のようないわゆる「硬い文章」を読むのに慣れ、さらには自分でも書けるように練習する。「ニュース時事能力検定」の参考書・問題集に取り組み、受検を促す。「新聞は難しいから読まない」という人ほど、むしろ歓迎する。		

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート		
		提出物	50	授業ごとに指定されたテーマにもとづいてスクラップ・ブックを作り、期末に提出する。
		小テスト	20	ニュース検定や講義内容についての小テストを実施する。
		平常点	30	授業時間中におこなうスクラップの発表の内容を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等	日本ニュース時事能力検定協会（監修）	『2023年度版ニュース検定公式テキスト＆問題集　3・4級対応』	毎日新聞出版
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	池上彰	『池上彰の新聞勉強術』	文春文庫

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各自で新聞を用意し、スクラップ・ブックを作成すること。作る際の詳細な注意点は、初回のガイダンスで指示する。授業日以外でも新聞やテレビのニュース番組、ネットのニュース・サイトに親しむことが必要である（毎日数十分程度、1週間で4時間程度）。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、スクラップ・ブックの作り方と「ニュース時事能力検定」について	「ニュース検定」の例題への取り組みによって評価
	学習成果	新聞というメディアの特性を理解し、スクラップ・ブックを作成する準備ができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。	
2回	授業内容	新聞の種類	スクラップの発表によって評価
	学習成果	流通範囲や扱う内容に応じて新聞に多くの種類があることを説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。ニュース・サイトを閲覧する。	
3回	授業内容	アナログ・メディア（新聞紙）とデジタル・メディア（ニュース・サイト）の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	アナログとデジタルの双方の長所と短所を対比して説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題についてまとめておく。	
4回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（1）政治	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	政治分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。政治分野の話題を復習する。	
5回	授業内容	一日分の新聞の構成	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞の「面」ごとの特色を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。見出しの特徴を調べておく。	
6回	授業内容	新聞記事の構造、見出しの役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事の構造や見出しの役割を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題についてまとめておく。	
7回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（2）経済	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	経済分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。経済分野の話題を復習する。	
8回	授業内容	写真、レイアウト、文字の役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	報道写真に込められた意図に留意しながら「読み解く」ことができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。暮らしにかかわる話題についてまとめておく。	
9回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（3）暮らし	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	暮らしにかかわる知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞広告の特徴を調べておく。	
10回	授業内容	新聞広告の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞という物理メディアならではの広告の表現手法の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題についてまとめておく。	
11回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（4）社会・環境	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	社会・環境の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題を復習する。	
12回	授業内容	新聞を読み比べる（1）一般紙どうしの読み比べ	スクラップの発表によって評価
	学習成果	複数紙の読み比べをとおして、報道と世論形成のかかわりを説明できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題についてまとめておく。	
13回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（5）国際	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	国際分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。国際分野の話題を復習する。	
14回	授業内容	新聞を読み比べる（2）「日本経済新聞」を読む	スクラップの発表によって評価
	学習成果	「日本経済新聞」の特徴を理解し、活用できる。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。新聞の文体の特徴を調べておく。	
15回	授業内容	新聞記事の文体をまねて記事を書く	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事風の文章が自分で書ける。	
	予習復習の内容	スクラップを作成する。授業全体を振り返り、まとめる。	

科目名	ホスピタリティ概論				担当者	山川奈美（ヤマカワナミ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）か、Classroom、Eメールで行う。yamakawa.na@seiwa.ac.jp

専門的学習成果	①	ホスピタリティの起源・語源・歴史を理解し、概要を説明できる。
	②	ホスピタリティを活用している施設を調べ、内容を比較できる。
	③	日常生活の中で必要な人間関係を論じ、ホスピタリティの必要を述べることができる。
	④	自然環境に対し、ホスピタリティの必要性を述べることができる。
汎用的学習成果	(1)	単なる「おもてなし」ではなく、良好な人間関係を築くことができる。（専門的学習成果①②③）
	(2)	自然環境に必要なホスピタリティもあり、社会生活を営む上で重要なことを挙げることができる。（専門的学習成果①④）
	(3)	グループワークを通し、具体的なホスピタリティを挙げることができる。（専門的学習成果②③④）
授業概要	「ホスピタリティ」という言葉を、日本人は「おもてなし」と表現することが多い。しかし、人間関係に留まらず、動植物やその他の自然環境に対してもホスピタリティは必要である。多様で深い本質を持つ「ホスピタリティ」を学び、またグループワークを通じ議論することで、豊かな社会生活を送ることができるようにする。また、自分の考えを述べること、相手の考えを聴くことで、コミニュケーション力を養う。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	60	15回の講義を通じレポートを作成し、理解度を評価する。
		グループワーク	30	小グループでのワークを通じ、プレゼンテーションを行い評価する。
		平常点	10	グループワークや授業への取組み・意欲・態度により評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③④により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	力石寛夫	『ホスピタリティ』	商業界
	力石寛夫	『ホスピタリティマインド実践入門』	研究社

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義内容を整理する。そしてグループワークの発表に備え、具体的な内容に基いた自分自身の考えをまとめておく（30時間）。また、日常において、自身の行動及び他者の行動を観察し振り返りをし、より良い社会の構築を考える（30時間）。 ②レポートは後期開講直後に返却し、フィードバックする。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	TDR のホスピタリティ	レポート提出
	学習成果	TDR でのホスピタリティ溢れる接客を述べることができる。	
	予習復習の内容	自身が体験した TDR を思い出し、整理しておく。	
2回	授業内容	テーマパーク論	
	学習成果	国内外のテーマパークを比較し、接客の仕方を述べることができる。	
	予習復習の内容	自身が体験したテーマパークでの思い出を整理しておく。	
3回	授業内容	ホスピタリティの起源	
	学習成果	人類の始まりから続くホスピタリティを説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
4回	授業内容	ホスピタリティとサービス	
	学習成果	ホスピタリティとサービスとの概念比較を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
5回	授業内容	ホスピタリティとサービス　グループワーク	
	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げることができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
6回	授業内容	ホスピタリティとサービス　グループワーク発表	グループワークへの取組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
7回	授業内容	ホスピタリティマネジメント	
	学習成果	社会生活をおくる上で必要なホスピタリティを述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
8回	授業内容	ホスピタリティマーケティング	
	学習成果	仕事をする上で必要なホスピタリティを述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
9回	授業内容	友人間でのホスピタリティ　グループワーク	
	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げることができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
10回	授業内容	友人間でのホスピタリティ　グループワーク発表	グループワークへの取組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
11回	授業内容	ホスピタリティと環境　自然との共生	
	学習成果	自然と人間のとの共生について、意見を述べることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
12回	授業内容	ホスピタリティと環境　食物との関係	
	学習成果	自然環境に配慮した食物の栽培や摂取の仕方を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントで講義した内容を整理しておく。	
13回	授業内容	職場でのホスピタリティ　　グループワーク	
	学習成果	グループワークをおこない、自身の考えを挙げることができる。	
	予習復習の内容	自身の考えとグループ各員の考えを整理しておく。	
14回	授業内容	職場でのホスピタリティ　　グループワーク発表	グループワークへの取組み
	学習成果	先のグループワークでの意見を、全員の前でプレゼンテーションできる。	
	予習復習の内容	他グループの考えを聴き、自身の意見と比較・検討する。	
15回	授業内容	自身の考えるホスピタリティ	レポート提出
	学習成果	講義やグループワークを通して自身のホスピタリティを述べることができる。	
	予習復習の内容	レポートをまとめ提出できる。	